

今金町における在宅高齢者への役割設定に至るまでのプロセス(南栄町内会)

月日	自治会に対する働きかけ・取り組み	自治会(役員・住民)の反応	質的評価(専門家の気づき)	量的評価(参加数他)
17. 10. 25	<ul style="list-style-type: none"> 自治会長へ電話する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の話しは予算もついでいい話だが、12月で役員改選のためその後改めて検討したいとの申し出がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現役員体制では話しがまとまらなかったと考へる。しかし会長としては今後の町内会活動にも生かすことができると期待している。 会長の意向を尊重し経過を固守するが、新体制が成立後、話し合いを進めるためには役員会への積極的な介入が必要である。 	
17. 12. 中旬	<ul style="list-style-type: none"> 町内会の地域サポーターである役員候補員に、会長とのやりとりを話し力を得る。また今年度中の予算付けであること、取り組み内容として、個人個人で花を育て後に品評会をする方法を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年明けに役員改選及び総会があるため、今までの経緯を説明してくれること。ただし、町内会が了承しない理由として役員の負担増だけではなく、財政的な問題も大きいと話す。取り組み内容については職員から説明してくれることとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 役員の負担増より財政面で課題の方が大きいように受け取る。お盆がかからないような内容であることも必要である。 総会や役員会へ参加できないことから、会長だけでなく職員との連携も別視点からアプローチする風い検討材料となる。 	
18. 2. 14	<ul style="list-style-type: none"> 南栄町の地域ケア会議に参加し、今までの話し合いの経緯と取り組みの企画を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「花壇づくりを必ずしなければならぬのか」、「お盆は3月までだから、花壇づくりが始まる時期には間に合わない」、「成果を求められるのか」などの意見が出される。また「何が新しい取り組みをするのかもお盆がかかる」、「みんな様々な意見があるためまとまりづらい」とも出される。 取り組みの提案内容を再度説明し、混乱している部分を解消する。また予算を前倒しできることや、実行委員会の設立、従来から行っている花壇整備事業に付加させることを説明する。「それならばやってみよう」などの意見が出され、決定を役員会へ委ねる。その他に女性部から月に1回でも集まる機会を設けたいとの提案もあり併せて検討することとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究事業であるため、成果が求められるので大変であるとの意識があり、それであればお盆もかかると思っていたのではないかと考える。そのあたりの誤解を解消し、また財政面や取り組み内容も新規ではなく今あるものに付加させていくことを説明することで、町内会の負担感も緩和され話しが進んだものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 32名
18. 2. 17	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会開催(町内会で自主的に開催)。実行委員7名選出し、花壇整備と定期的な集会を事業内容とすることを決定する。 			
18. 2. 20	<ul style="list-style-type: none"> 花壇整備グループ、集会グループそれぞれから必要物品の見積書が提出される。 			
18. 2. 22	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員と実行委員(女性)2名としバツツで面談する。第1回実行委員会を開催したこと、今後の取り組みについての話しをされる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業については知識、経験がありやりやすさがある人がリーダーであるため、とてもスムーズに話が進んでいる様子。ただし花壇整備と集会の2つにグループが別れており、お互いの動きを把握していかない。また実行委員長もリーダーに任せられており、進捗状況を把握していない。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーをおき、役割分担制をとっているのは良い方法だが、お互いの動きが把握されておらず実行委員会の足並みがそろっていない。委員長もリーダーに任せられているため動きを把握していないため、実行委員会に同席させてもらい、実行委員会として動きをとってもらい確認する必要がある。 	
18. 3. 3	<ul style="list-style-type: none"> 集会リーダーと会い、第1回の集まりについて話し合う。花壇整備の呼びかけを集会時に行きたいこと、今後の取り組みについて町内会に周知していきたいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 集会グループは花壇整備グループと同時に話し合っている様子。また集会グループの調整をうまく回れない様子。また集会グループについて役員会にも相談できず、集会が浮かばないためと対策を講じて話し合いたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーは委員長からそれ任せられていることへの意識が強い。自分何とかがなければならぬと考えている様子。そのため集会前に実行委員会を開いてもらい、役割分担は必要だが町内会の検討や決定は実行委員会で行うことを説明する必要がある。 	

来たれ！
大和の学び舎へ！

大和町在住の方限定！
ご近所お誘い合わせの
うえ、お越し下さい！
目指せ、皆勤賞！

寺子屋やまと

で
楽しく学んでみませんか？

《いろいろな講座とその効果》

- ・国語・算数；読み書き等→脳がイキイキ、認知症予防！
- ・家庭科；そば打ち等→料理の腕がますますアップ！
- ・美術；クリスマスリース作り等→飾ればお部屋がステキに変身！
- ・体育；腰痛・肩こりリフレッシュ講座等→体がスッキリ楽になる！
- ・音楽；コーラス→大きな声で歌えば気分爽快！
- ・英語；簡単英会話→外国の人に会ってももう怖くない！？

☆全て初心者向けの内容です！

☆参加費は無料です！

☆「寺子屋やまとセット」がもらえます！

日直

『寺子屋やまと』は今年5月と8月に西部百年館で開催された座談会の中で「いろいろなことを学びたい」という声が多く上がり、実施することになった、『大和町民の大和町民による大和町民のための寺子屋』です。

★★★大和町内にお住まいの方ならどなたでも受講できます。★★★

♪寺子屋やまとに来ると、こんな良いことがあります♪

- ① お友達が増える！
- ② 頭・体・心がイキイキする！
- ③ 人がイキイキすると、町もイキイキ、元気になる！

※日程、講座内容等については裏面をご覧ください→

※よく見える場所に貼ってください！くれぐれもなくさずに！

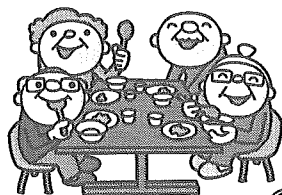
「寺子屋やまと」 日程表

◎場所は西部百年館です。ただし第7回(2月27日)のみとしべつです。

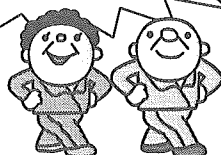
◎時間は13:30~15:30です。

◎健康相談は毎回行います。健康手帳を忘れずにお持ちください。

	日程	講座名と内容		講師
第1回	11月28日(月)	・開校式 ・「寺子屋やまと」説明会 ・開校記念アトラクション (大和町ステップダンス披露会)		
第2回	12月5日(月)	美術	クリスマスリースを作ろう！ (手芸用ニッパーをお持ちの方は持参してください。)	小山二三子さん
第3回	12月19日(月)	家庭科	年越しそばを作ろう！(そば打ち)	竹内正夫さん
第4回	1月16日(月)	体育	腰痛・肩こりリフレッシュ講座	斉藤恭平先生
		英語	ロジャーと簡単英会話	ロジャーさん
第5回	1月30日(月)	音楽	みんなで歌おう！(コーラス)	未定
		国語・算数	脳活性化教室	としべつ職員
第6回	2月13日(月)	未定	検討中。お楽しみに！	未定
第7回	2月27日(月)	家庭科	本格オムレツを作ろう！ ※場所はとしべつ内調理室です	函館短期大学付設調理師専門学校の先生
第8回	3月13日(月)	美術	初級フラワーアレンジメント	小山二三子さん
第9回	3月27日(月)	家庭科	手打ちうどんを作ろう！	北村茂義さん
		閉校式	お楽しみに！	



みんなで、いろいろなことにチャレンジしよう！！



《お問い合わせ先》

- 実行委員長 平賀勝男さん
(2-0522)
- 副委員長 小山二三子さん
(2-1646)
- 総合福祉施設としべつ内
 - ・在宅介護支援係
 - ・保健福祉課健康づくり係
(2-2780)

寺子屋やまと 入学許可証

様

寺子屋やまとへようこそ！

たくさん学び仲間と交流し、心も体
もいきいきと楽しい時間をすごし
ましょう。 楽しむ気

持ちのあるあなたの寺子屋やまと
入学を認めます。

出席簿

出席日にはんこを押しますので、忘れずにお持ち下さい。皆勤賞をめざしましょう！

	日にち	出席確認欄
第1回	11月28日	
第2回	12月5日	
第3回	12月19日	
第4回	1月16日	
第5回	1月30日	
第6回	2月13日	
第7回	2月27日	

種川連合自治会の人口の様子 (平成17年12月31日現在)

人口	570
65歳以上	201 (35.3% (今金町29.5%))
75歳以上	109人 (高齢者の54.2%)
高齢者のいる世帯	141
単身世帯	31 (22.0%)
夫婦世帯	76 (53.9%)

※今金町全体(平成17年10月1日)

人口	:6,618人
65歳以上	:1,949人 (29.50%)
75歳以上	:978人 (50.10%)
高齢者のいる世帯	1,330
単身世帯	375 (28.2%)
夫婦世帯	450 (33.8%)

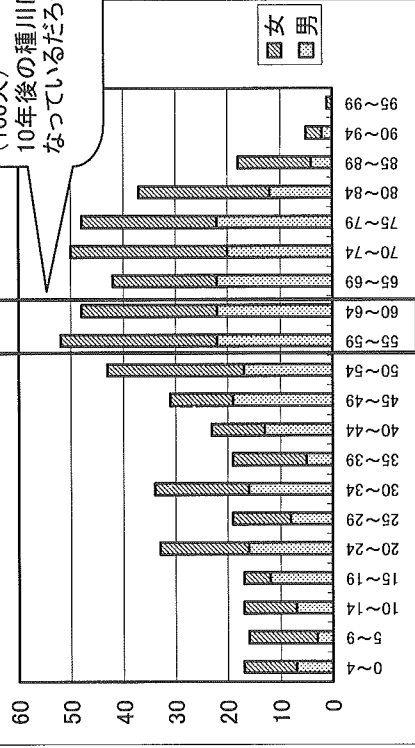
	男	女	男女
0~4	7	10	17
5~9	3	13	16
10~14	7	10	17
15~19	12	5	17
20~24	16	17	33
25~29	8	11	19
30~34	16	18	34
35~39	5	14	19
40~44	13	10	23
45~49	19	12	31
50~54	17	26	43
55~59	22	30	52
60~64	22	26	48
65~69	22	20	42
70~74	20	30	50
75~79	22	26	48
80~84	12	25	37
85~89	4	14	18
90~94	2	3	5
95~99	0	1	1

種川自治会の人口の特徴

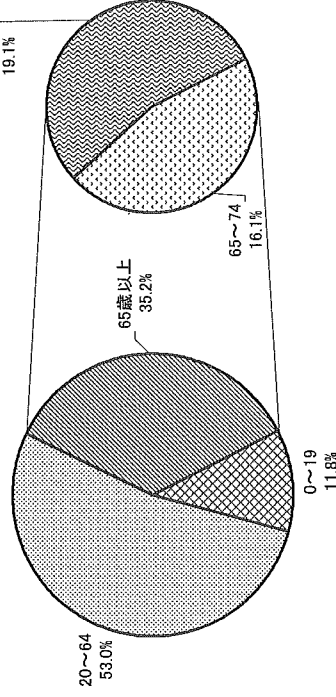
- ① 高齢化率が高い
種川自治会の3人に1人は高齢者
- ② 75歳以上の後期高齢者の割合が高い
高齢者の半数は後期高齢者
- ③ ほとんどの高齢者が一人暮らしか夫婦世帯
高齢者75%167人は1人暮らしか夫婦世帯

種川自治会の年齢帯別人口

2015年(平成27年)には高齢者となる世代(100人)は10年後の種川はどうなっているだろうか?

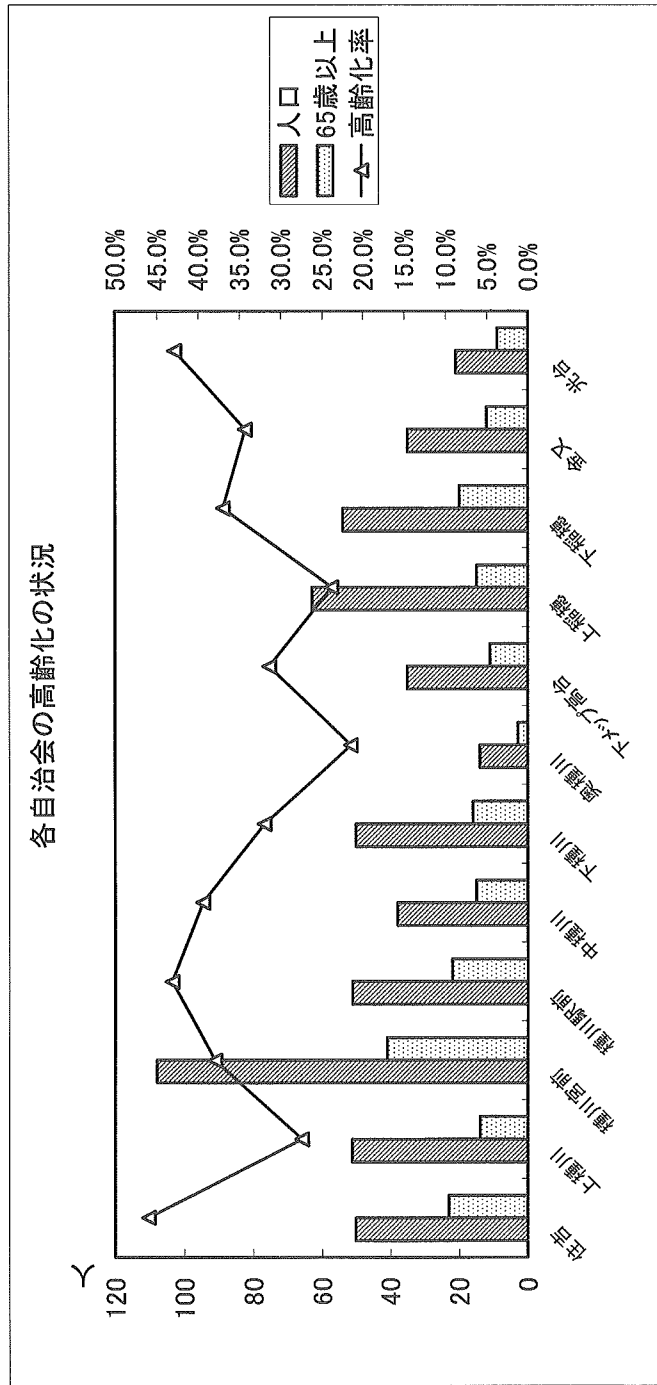


種川自治会の人口構成比

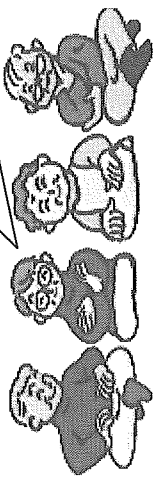


種川連合自治会各自治会の高齢化の状況

	人口	65歳以上	高齢化率
住吉	50	23	46.0%
上種川	51	14	27.5%
種川宮前	108	41	38.0%
種川駅前	51	22	43.1%
中種川	38	15	39.5%
下種川	50	16	32.0%
奥種川	14	3	21.4%
下メツブ高台	35	11	31.4%
上稲穂	63	15	23.8%
下稲穂	54	20	37.0%
金又	35	12	34.3%
光台	21	9	42.9%
	570	201	

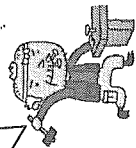


第2回シニアが主役の



元気な町づくり座談会 In 南栄町

裏面もみてね!



「高齢者が多くても元気な町ってどんなまち？」皆さんならどんな町を思い浮かべますか？

去る4月29日、上記のテーマについて第1回元気な町づくり座談会を開催しました。南栄町の40代～80代まで

31名の方が参加し、真剣な意見交換やたびたび笑ひありの、とても集りの多い楽しい時間を過ごしました。

元気な町づくりのために、皆でできそうなこと・できたら楽しいなこととして…こんな意見が出ています。

★ 町内の清掃活動

★ 花壇づくり

★ みんなで旅行

きれいな南栄町に
したいという意見
が多かったです。

年齢・世代を問わ
ず、人気高し!



この他にもたくさんの方の意見が出されました。詳しくは裏面
前回、出ていない方のご参加もお待ちしております!

日時:平成17年6月28日(火)午後6時～8時

場 所:南栄町会館

テ-マ:「第2回 元気な町づくり座談会 In 南栄町」

函館短期大学 教授 斉藤 恭平氏

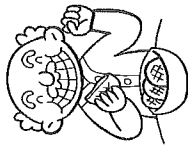
* 今回は、前回の意見をもとに町づくりのアイデアを更に
ふくらませ、具体的にしていきたいです。

問合せ:健康づくり係・在宅介護支援センター(2-2780)

第1回元氣な町づくり座談会まとめ — こんな意見あんな意見が飛び出しています！

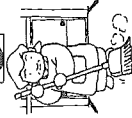
①元氣な高齢者ってんがく！

- ・ 笑顔のいい人・大きな声で笑う人
- ・ 友人とおしゃべりできる人
- ・ 自分のことをきちんとしてできる人
- ・ 何事にも関心がある人
- ・ 運動（パークゴルフ・ウォーキングなど）している人
- ・ たくさん食べる人
- ・ 趣味をもっている人
- ・ ボランティア活動に参加している人 等々



②家庭内の役割

やているん



- ・ 菜園づくり
- ・ 食事・掃除・洗濯
- ・ 先祖の供養（仏壇）
- ・ 妻の手伝い
- ・ 力仕事

やておだいん

- ・ ご飯を作れるようになる
- ・ 手芸などの趣味
- ・ 歩くこと

③趣味…やているん

- ・ 山菜とり
- ・ 園芸
- ・ カラオケ
- ・ ゲートボール
- ・ 釣り
- ・ ちぎり絵
- ・ 自然散策

やておだいん

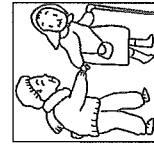


- ・ 英会話
- ・ 旅行（国内外）
- ・ パソコン
- ・ ゴルフ
- ・ ヨン様の追っかけ
- ・ 庭づくりを学ぶ
- ・ 押し絵
- ・ おしゃれ
- ・ 温泉めぐり
- ・ 等々

④ボウシタマ…やているん

- ・ 雪かき
- ・ 町内会活動（清掃活動など）
- ・ 施設への慰問（歌をつたう等）
- ・ 火の用心まわり

やておだいん



- ・ 町内会活動（清掃活動など）は継続・拡大していきたい
- ・ 一人暮らしの高齢者を集めておしゃべりしたりする。
- ・ 食事づくり
- ・ 子供に戦争体験を教えたい
- ・ 花壇づくり

⑤みんながたまごん・たまごん楽しいん



・ 町内会等の清掃 ・ 花壇づくり ・ 旅行

（この他の意見）

- ・ 花や野菜づくり
- ・ 盆踊り
- ・ ハギレ布づくり
- ・ 子供から高齢者まで集まって、手打ちそばや芋団子等を食べながら交流

東北地区における高齢者の担える役割の検討

分担研究者 安村誠司 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座 教授

研究要旨

本研究は、体力レベルに応じた高齢者の役割の創造と開発を目的に、平成 16 年度の実態調査の結果を踏まえ、地域住民を対象としたグループワークと質問紙調査を行い、高齢者が主体的に取り組める役割について検討した結果を報告する。

グループワークの結果では、高齢者が今後も続けたい家での役割は、「家のこと全般」、「漬物作り・干し柿作り」、「農作業」、「庭木の手入れ」、「家族の世話」、「孫の世話」、「ペットの世話」などが挙げられた。地域での役割は、「公園や公民館、神社などの清掃活動」、「近隣との交流」、「子どもの見守り・声かけ」、「地区活動への参加・協力」、「伝統芸能の実施・伝承」に関することが挙げられた。趣味・学習活動では「グランドゴルフ」、「ゲートボール」などのスポーツや「カラオケ」、「町内の人たちとの旅行」が挙げられた。また、高齢者が今後新たに取り組みたいことは「子どもの登下校時の見守り」、「伝統芸能」・「昔の料理」・「昔の遊び」を若い人や子どもに教えることなどであった。

非高齢者が高齢者に期待する役割は「家事の手伝い」、「農作業」、「草木の手入れ」などから「若い世代への助言」まで様々なことが挙げられた。地域での役割では、地域交流や地域組織活動に関すること、子どもに関すること、文化の伝承に関すること、趣味・学習活動を通して元気であることが期待されていた。

質問紙調査では、初期回収者 150 人を分析対象とした。その結果、高齢者が主体的に取り組める役割を創造する上で、活動内容の認知度、これまでの実施経験、社会との関わり方に関する考え方、活動能力について考慮していくことの必要性が示唆された。

A. 研究目的

日本における 65 歳以上の老年人口割合は、平成 16 年には 19.5% となり¹⁾、5 人に 1 人が高齢者の占める国となった。急激に高齢化が進展する中で、元気で活力のある高齢者を増やすことが国策として掲げられ、高齢者の生きがい対策の一環として社会活動・社会参加の推進が注目されるようになった¹⁾。

現在、高齢者の社会活動・社会参加については総務庁などの行政機関による実態調査が報告されている^{2), 3)}。また研究では、生命予後の延長や早期死亡との関連^{4~9)}、主観的健康感や健康度との関連^{10~11)}などが明らかにされている。しかし、これらの研究の多くは、社会活動や社会参加の重要性を提言するに留まり、具体的にどのような内容が高齢者の社会参加や活動を促進するのかまでは言及していない。また、高齢化が進む中で、地域活動等による高齢者の新たな社会的役割への

期待が高まってきている¹⁾が、地域や高齢者自身どのような役割を担って欲しい、担いたいと考えているのかについては明らかにされていない。加えて地域で生活する高齢者の身体機能のレベルは幅広く、高齢者の状況に応じた実施可能な活動内容を提示していくことは今後必要になってくると考える。

そのため本研究では、高齢者の社会活動・社会参加、個人的な学習活動などを包括して「高齢者の役割」と位置づけ、幅広い体力レベルにおいても担える役割の創造と開発を目的とする。

本年度は、東北地方で行った平成 16 年度の実態調査の結果を踏まえ、①地域住民を対象としたグループワーク、②グループワークから抽出された役割内容を含めた質問紙調査を実施した。以上、2つの研究結果をもとに高齢者が主体的に担える役割内容を創造する上での課題を検討する。なお、質問紙調査に

については、一次分析として初期回答者 150 人の結果を報告する。

以下、研究方法別に成果の報告をする。

<グループワーク>

B. 研究方法

1. 対象

昨年度、質問紙調査を実施した福島県 S 市 A 地区の老人クラブ等に所属する 65 歳以上の高齢者および地域の健康づくりの会に所属する非高齢者を対象とした。

2. 調査方法

1) グループワークの方法

グループワークは高齢者、非高齢者に分けて地区の公民館で行なった。実施日は平成 17 年 11 月下旬で、実施回数は各 1 回、所要時間は 2 時間程度とした。

グループワークの方法は、安梅¹²⁾、13) によるグループインタビュー法およびチェンバース¹⁴⁾のワークショップ法を参考に実施した。高齢者、非高齢者ともに 3 グループに分け、全体のファシリテーターおよび各グループのインタビュアーを保健・医療専門職が担当し、テーマに沿って話し合いを運営した。話し合いの内容は、付箋紙に記録し、模造紙を使って整理するとともに対象者の承諾を得て録音した。

2) 話し合いのテーマ

グループワークでは、導入として A 地区の高齢者のイメージ・特徴を挙げてもらった上で、以下のテーマについて話し合いを行った。

[高齢者の話し合いのテーマ]

- ①行ってみたい家の中・地域での役割
- ②A 地区の高齢者ができる家の中や地域での役割

[非高齢者の話し合いのテーマ]

- ①高齢者に行って欲しい家の中・地域での役割
- ②A 地区の高齢者に行って欲しい役割とどうしたらその役割を実施できるかの検討

3. 分析方法

グループワークで記入した付箋紙および録音内容を逐語録に起こしたのから、役割内容を抽出し、類似した内容をまとめ、項目化した。

高齢者が「行ってみたい家の中・地域での

役割」の話し合いの内容は、「家での役割」、「地域での役割」、「趣味・学習活動」に分類し、それぞれ「現在も行っている役割」、「今後も続けたい役割」、「今後新たに組みたい役割」に整理した。また、「A 地区の高齢者ができる家の中や地域での役割」については、「A 地区の高齢者が続けたい役割」、「今後新たに行きたい役割」として整理した。

非高齢者も高齢者と同様に「家での役割」、「地域での役割」、「趣味・学習活動」に分類し、「現在も行っている役割」、「期待する・行ってもらいたい役割」に整理した。また、「A 地区の高齢者に行って欲しい役割」については、各グループで高齢者に行って欲しいと考える役割を 1 つ決め、その役割はどうしたら実施可能になるのかということ話し合ってもらい、その内容を整理した。

以上、整理した内容をもとに、高齢者が担える役割について検討した。

C. 結果

1. 対象者の概要

グループワークの参加者のうち高齢者は、男性 8 名、女性 16 名で、平均年齢 73.1 ± 3.4 歳（最小年齢 66 歳、最高年齢 82 歳）であった。非高齢者は男性 3 名、女性 13 名で、平均年齢 53.6 ± 7.4 歳（最小年齢 41 歳、最高年齢 64 歳）であった。

2. A 地区における高齢者の役割

1) 高齢者グループのグループワーク

現在行っている家の中での役割は、「家事の手伝い」や「家を守る」、「農作業」などであった。地域では、「公園の掃除」、「高齢者サロン」などの地域組織活動、地域の交流などを行っていた。また、趣味・学習活動では、「ゲートボール」、「グランドゴルフ」などのスポーツや「カラオケ」などを積極的に行っていた。

今後の続けたい家での役割は、炊事・掃除・洗濯なども含めて「家のこと全般」、また「漬物作り・干し柿作り」、「農作業」や「庭木の手入れ」が挙げられていた。この他にも「若い人（家族）の食事の世話」や「孫の世話」、「ペットの世話」なども挙げられた。地域では、「公園や公民館、神社などの清掃活動」、「近隣との交流」、「子どもの見守り・声かけ」、「地区活動への参加・協力」、「伝統芸能」に関するものが挙げられていた。趣味・学習活動では「グランドゴルフ」、「ゲートボール」

などのスポーツや「カラオケ」、「町内の人たちとの旅行」を楽しみとして続けていきたいと話していた。また、これらを行う上で、健康づくりもしていきたいと述べていた。

今後新たに組みたいことは、家の中では子ども世代に自分達を見習ってもらい、跡を継いで欲しいと話していた。地域では、「子どもの登下校時の見守り」をしたり、「伝統芸能」、「昔の料理」、「昔の遊び」を若い人や子どもに教えたいことを挙げていた。趣味・学習活動では、「筋力トレーニング」や「新しい趣味」を挙げていた（表1）。

A 地区の高齢者ができる役割では、地域の活動は「子どもに関すること」、「地域文化の継承」、「環境美化活動」、「地域組織活動の活発化」が挙げられていた。趣味・学習活動では、「スポーツ」や「カラオケ」などの他に、生きがいを持つことや健康づくりに取り組んでいきたいと話していた（表2）。

2) 非高齢者グループのグループワーク

非高齢者が捉えている高齢者が「現在も行っている役割」は、家の中では「家の手伝い」、「畑仕事」、「昔ながらの料理作り」や「若い人が知らないことを教える」であった。地域での役割は、「子どもの安全を守る活動」、「地域活動への参加」、「地域行事への参加・協力」などであった。趣味・学習活動は、「グランドゴルフ」、「ゲートボール」などのスポーツが挙げられた。

期待する役割については、「家事の手伝い」、「野菜作り」などの農作業や「草木の手入れ」、「草むしり」、「留守番」、「電話番」、「家畜の世話」など様々なことが挙げられた。また、「若い人に遠慮せずに意見をいう」や「(若い人に) アドバイスする」、「自分のことは自分で行う」ということも期待されていた。地域では、地域交流や地域組織活動に関すること、子どもに関すること、清掃活動、文化の伝承に関することが期待されていた。その他、趣味・学習活動なども通して「元気である」、「健康である」ことが期待されていた（表3）。

A 地区の非高齢者が高齢者に期待する役割では、I・IIの2つのグループが「地域の子どもの登下校時の見守り(パトロール)」を挙げ、もう1つのIIIグループは「放課後、集会所で子どもたちを遊ばせる」ことを挙げていた。子どもの登下校時の見守りでは、Iグループは実施する上での困難要因として「学校

まで距離がある」、「資金が必要」、「不審者に思われる」可能性があること、東北の気候上、「冬は無理」なことなどを挙げていた。IIグループでは、高齢者自身、危険に会う可能性があることや高齢者がどう思っているかわからないこと、資金が必要であることなどを挙げていた。どうしたら実施できるかについては、2つのグループともに各地区で組織的に行なっていくことを挙げ、行政や地区の公共機関のバックアップが必要であることが話し合われていた。

IIIグループではテーマは異なっていたが、困難要因として子どもや高齢者自身の怪我、冬場の実施困難など他の2つのグループと同じ要因を挙げていた。また、どうしたら実施できるかについても、区全体で連携をとって行うことを挙げ、地域の各機関・団体との協力が必要であると話していた（表4）。

D. 考察

全体的に高齢者自身が今後も続けたいと思っている役割は、非高齢者が高齢者に期待する役割と重なる項目が多かった。家の中では「家事」、「漬物づくり」、「農作業」、「庭の手入れ」、「留守番」、「孫の世話」、地域では「地域の美化・清掃活動」、「地域行事・地域活動への参加・協力」、「地域交流」、「子どもの見守り」、「子どもとの遊びを通じた交流」、「伝統文化・芸能の継承」が高齢者は続けたいと考え、非高齢者が行って欲しいと期待する役割であった。いずれにしても「子どもの世話や見守り」に関する役割は、高齢者・非高齢者ともに関心が高い役割であり、次世代を支える『子どもを育てていく』ということが、地域全体の役割として重要視されている結果ではないかと考える。祖父母による孫の養育については、Pruchno ら¹⁵⁾が肯定的影響と否定的影響を実証している。孫の養育は、高齢者に多くの喜びを与える反面、責任が伴い負担感を生じさせるというものである。このことは、地域での役割として子どもに関わる活動にも同様のことが考えられ、「責任」が個々の高齢者に問われる場合、ニーズはあっても実施困難となる可能性が高い。子どもに関する活動に関しては、実施する個々の高齢者をバックアップする体制も同時に必要になってくるのではないかとと思われる。

趣味・学習活動については現在も活発に行

っており、引き続き行っていききたいと考え、非高齢者も続けて欲しいと考えていた。

また、高齢者は今後新たに行っていきたいこととして、次世代の育成に関することを挙げていたのに対し、非高齢者自身も高齢者にもっといろいろ教えて欲しいと期待していた。

平成7年度に総務庁が行った高齢者の生活と意識の国際比較³⁾では、日本の高齢者が家族に貢献している内容として「相談相手(42.5%)」の割合が「家事の担い手(43.1%)」に次いで高かった。半数弱の割合ではあるが、高齢者自身も家の中での相談相手としての役割を認識しており、高齢者の重要な役割の1つであるといえる。非高齢者の中には高齢者は若い世代に遠慮して意見を控えていると感じていた参加者もあり、高齢者が思う以上に、若い世代は高齢者に知恵を借りたいと考えている様子が伺われる。一方的に教えるということではなく、若い世代と意見交換をしながら、ともに考えていくということが、非高齢者の求める高齢者像なのかもしれない。

また、非高齢者が高齢者に期待する役割として「元気であること」、「健康であること」を挙げていたのに対して、高齢者自身も健康づくりに取り組んでいききたいと考えていた。健康であることも高齢者が望み、若い世代に期待される高齢者の役割の1つであった。このことを広めていくことで、今以上に高齢者の健康づくりに対する意識が高まるのではないかとと思われる。

今回、グループワークを行ったA地区は、地域組織活動が盛んな地区であり、高齢者・非高齢者ともにその活動を行うことを必要なこととして認識していた。高齢者自身が行いたいと希望し、非高齢者が行って欲しいとして挙げていた「子どもに関する活動」については、地区全体で組織的に取り組む必要があることだと考えられていた。しかし、その一方で、高齢者自身は、会の参加者を増やしていくことや継続していくことの困難さも感じていた。年々、地域交流が減少している現代にあって、高齢者が地域での活動を行いたいと思った場合、地域組織の存在はそのきっかけとなり得るものと考えられる。今後、ますます地域組織活動への期待は高まると思われるが、活動の継続を支援するための体制作りも今後必要な課題となってくるであろう。

高齢者の担える、また担って欲しいと期待

される役割には、家の中や趣味の活動などの個人的なことから、地域組織活動のような団体活動までであるが、それらを行えるバックアップ体制があることが実施・継続の条件になっていると思われる。高齢者の役割の創造していくためには、高齢者のみでなく、非高齢者も含め、双方のニーズを明らかにしていくことが今後必要であろう。

<質問紙調査>

B. 研究方法

1. 対象

昨年度の調査結果との比較検討を考え、昨年度と同様の集団を対象とした。平成17年2月1日現在、福島県S市A地区在住の65歳以上の高齢者1,446人中、1/2の無作為抽出者723人のうち、平成18年2月現在において施設入所、死亡、転出した者を除く654人を対象とした。

また、本報告は一次分析として調査期間初期回答者150人を分析対象とした。

2. 調査方法

調査期間は、平成18年2月20日～3月3日である。調査はS市保健福祉部市民健康課、A地区健康づくりの会の協力を得て、自記式調査票を用いた質問紙調査を実施した。配布回収は郵送法で行った。なお、自分で記入できない者については代理者に記入してもらうよう依頼した。

1) 調査項目

①対象者の属性

年齢、性別、同居している家族、健康度自己評価、生活満足度、社会と関わって生活していきたいと考えているかの意向(考え方)、日常生活自立度、活動能力を把握した。日常生活自立度は厚生労働省の障害老人の日常生活自立度判定基準、活動能力については老研式活動能力指標¹⁶⁾を用いた。

②役割に関する項目

収入の伴う仕事の有無、シルバー人材センター・高齢者事業団の認知度と最近3ヶ月間の仕事の経験の有無、家の中での役割、地域の団体・組織・会との関わり、現在または最近行ったボランティア活動、今後新たに行っていきたいことについて選択式で把握した。今後新たに行いたいことの項目に関しては、役割に関する調査項目に加え、地域住民を対象に行ったグループワークで挙げられた主要な

項目を加えて把握した。

3. 倫理的配慮

調査に関する趣旨説明と依頼は文書にて行なった。本調査は今後の縦断的検討および保健事業への活用を視野に入れ、記名による調査とした。そのため、プライバシーの保護、データの取り扱いについても文書にて説明し、趣旨に同意した者の回答を得た。

4. 分析

解析は SPSS Ver.13.0 for Windows を使用した。分析方法は、定性変数は SPSS Exact Tests の正確確率検定を、定量変数は t 検定を用いて性別および、男女別に 75 歳未満と 75 歳以上に分けて比較した。また、「今後新たに行ってみたいこと」の有無に、どのような背景が影響しているのかを検討するため、各変数を 2 群に再分類し、比較検討した。老研式活動能力指標については、平均点を分割値とし、高群と低群に振り分けた。比較の結果、5%未満で有意となった変数を投入し、「今後新たに行ってみたいことの有無」を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析(変数減少法)を実施した。

C. 結果

1. 対象者の属性

対象者は男性 65 人(平均年齢 75.5±6.0 歳)、女性 85 人(平均年齢 75.1±6.1 歳)であった。世帯構成は、男性は女性よりも夫婦世帯の者が多く、女性は男性よりも独居およびその他の世帯の者が多かった。健康度自己評価、社会との関わりの考え方、日常生活自立度、活動能力については男女の差は認められなかった。生活満足度については、女性で「不満」と答えた割合が男性よりも高く、有意差があった(表 5)。

対象者を男女別に 75 歳未満と 75 歳以上に分けた結果では、男性は年齢による属性の差は認められなかった。女性は、活動能力で年齢による差が認められ、75 歳以上で得点が低かった(表 6)。

2. 性別による役割の比較

収入の伴う仕事は「持っている」割合に男女差は認められず、2 割前後の者が有していた。職種は男女とも自営業の割合が高かった(表 7)。

シルバー人材センター・高齢者事業団については昨年度調査の結果では実施者が非常に

少なく、認知度の把握の必要性が考えられた¹⁷⁾。そのため、実施経験の有無のみでなく、認知度についても把握した。認知度については明らかな男女差はなかったが、男性の方が知っている割合がやや高い傾向があった。仕事の経験については、実施者は男女合わせて 3 人(2.0%)であった(表 8)。

家の中での役割は、「食事の支度」(p 値=0.000)、「洗濯」(p 値=0.000)、「掃除」(p 値=0.000)、「神棚・仏壇の管理」(p 値=0.037)、「ごみ捨て・ごみ処理」(p 値=0.000)、「留守番・電話番」(p 値=0.000)、「大工仕事や家の修繕」(p 値=0.031)、「漬物・乾物・味噌作り等」(p 値=0.000)で男女差があり、「大工仕事や家の修繕」以外は、女性の実施割合が高かった(表 9)。

地域の団体・組織・会との関わりは、「農協・漁協・森林組合」(p 値=0.020)、「商工会・法人会等の商工団体」(p 値=0.046)で差があり、男性の入っている割合が高かった。全体的には男女とも「老人会・高齢者団体」、「町内会・自治会」に入っている割合が高かった(表 10)。

現在または最近行ったボランティア活動では、特に男女差が認められた項目はなかった。

今後新たに行ってみたいことでも特に男女の差はなかったが、庭の手入れや農作業、ペット・家畜の世話などの家事以外の家のことを行いたいと答えた割合が男女ともに最も高かった。一方で、「特になし」と答えた割合も男性で 37.8%、女性で 41.2%と比較的高い割合であった。

3. 性・年齢別の役割の比較

収入の伴う仕事に関しては、男女とも年齢による明らかな差は認められなかったが、75 歳以上では、男女とも仕事を持っている割合はやや低い傾向があった(表 13)。

シルバー人材センター・高齢者事業団の認知度と仕事の経験については、年齢による差は認められなかった(表 14)。

家の中での役割では、男性は「庭・花壇・菜園の管理」(p 値=0.034)、「家業の手伝い」(p 値=0.013)で年齢による差があり、75 歳以上で実施割合が低かった。女性では「食事の支度」(p 値=0.012)、「洗濯」(p 値=0.002)、「掃除」(p 値=0.040)、「漬物・乾物・味噌作り等」(p 値=0.006)で 75 歳以上の実施割合が有意に低かった(表 15)。

地域の団体・組織・会との関わりでは、男

女とも「入っている」割合に年齢による差は認められなかった（表 16）。

ボランティア活動については、男性で「農作業に関する活動」（ p 値=0.038）で年齢の差があり、75 歳以上で実施割合が低かった。女性では、年齢差は認められなかったが、75 歳以上の者が実施している項目は「美化・環境整備の活動」（24.0%）、「清掃に関する活動」（8.0%）、「農作業に関する活動」（36.0%）の 3 種しか挙げられておらず、他の性、年齢群よりも活動内容が限定されていた（表 17）。

今後新たに行ってみたいことは 75 歳未満の男性で「子供に関するボランティア活動」の割合が 75 歳以上の者よりも高かった（ p 値=0.032）。「家の家事以外の作業」については、男性では 75 歳以上で行ってみたいと答えた割合が低いのにに対し、女性では 75 歳以上（30.4%）の方が、75 歳未満（25.0%）の者よりも行いたいと答えた割合が高かった（表 18）。

4. 新たに行ってみたいことの有無に影響する要因

今後新たに行ってみたいことがある者と特にないと答えた者でどのような背景が影響しているのかを検討した。

最初に、各質問の選択肢を 2 群に分け、比較した結果では、属性に関しては、「健康度自己評価」（ p 値=0.012）、「社会との関わり」（ p 値=0.002）、「日常生活自立度」（ p 値=0.004）、「老研式活動能力指標合計点」（ p 値=0.003）、「手段的自立得点」（ p 値=0.001）、「知的能动性得点」（ p 値=0.033）、「社会的役割得点」（ p 値=0.043）で有意な差があった。役割関連項目については、「収入を伴う仕事」（ p 値=0.006）、「シルバー人材センター・高齢者事業団の認知度」（ p 値=0.002）、「家の中の役割の有無」（ p 値=0.012）、「地域の団体・組織・会との関わりの有無」（ p 値=0.034）、「ボランティア活動の実施の有無」（ p 値=0.000）で差が認められた（表 19）。

次に、上記、有意となった変数を投入し、ロジスティック回帰分析を行った。「シルバー人材センター・高齢者事業団の認知度（以下、オッズ比：0.03）」、「ボランティア活動の有無（76.22）」、「社会との関わり（24.14）」、「老年式活動能力指標合計点（0.07）」が今後行いたいことの有無との関連が認められた。

D. 考察

本報告の結果は、分析対象が早期回収者 150 人であるため、全体の傾向の予測的な見解として考察する。

対象者の属性に有意な差が認められた項目は、男女別で生活満足度、性・年齢比較で女性の老研式活動能力指標得点であった。そのため、大きな男女差はないが、女性の場合、活動能力に年齢差のある集団であったと考える。

収入の伴う仕事に関しては、一般的に男性の方が女性よりも有職割合が高いと報告されている³⁾。本調査の結果でも男性の方が女性よりも割合は高かったものの、明らかな差として現れなかった。このことは、男性の有職割合が低いことが影響していると思われる。A 地区は農林水産業に従事している者が多く、農作業を行っている高齢者も少なくない。高齢になった場合、家業の手伝いまたは自給自足の範囲で農作業を続けていることも考えられる。そのため、直接的な収入には結びつかず、有職率の低さにつながっているのかもしれない。

シルバー人材センター・高齢者事業団については、昨年度の調査結果で実施している者が非常に少なく、認知度と合わせて把握した。認知度については、男性で 7 割、女性で 5 割が知っていると答えていたが、仕事を実施している者は、男女合わせて 3 人（2.0%）のみであった。今後新たに行ってみたいことでもシルバー人材センターの割合は低かった。ほぼ半数の者は知ってはいるものの身近な活動と認識されていないことが伺われる。

家の中で行っている役割では、昨年度の調査結果同様、女性で家事の実施割合が高かった。しかし、75 歳以上の女性では 75 歳未満の女性よりも家事の実施割合が有意に低かった。本調査の女性対象者では、老研式活動能力指標得点に年齢差があり、75 歳以上の者で低いという結果であった。しかし、日常生活自立度では、年齢差はなく、「神棚・仏壇の管理」、「庭・花壇・菜園の管理」、「ごみ捨て・ごみ処理」、「留守番・電話番」などについては、年齢差は認められず、75 歳以上の者でも約 5 割が行っていた。老研式活動能力指標の手段的自立得点に関しては、男性よりも女性の方が低く、加齢による低下も顕著であったと報告されている¹⁶⁾。75 歳以上の高齢女性

の場合、外出や身の回りの買物といった比較的、行動範囲の広く、運動性の高い行動は年齢とともに実施していない傾向が伺われる。食事の支度や掃除、洗濯は毎日のことであり、運動量も少なくない。そのため女性では、自分のペースで無理せずに行える役割が年齢を問わず継続されるのではないかと考える。

地域の団体・組織・会との関わりについては、「老人会・高齢者団体」、「町内会・自治会」に入っている者の割合が高く、これらの組織が高齢者の主要な地域との関わりになっていることが考えられる。地域の団体・組織・会での関わりで男女とも年齢差が認められなかったことから、今後は、どのような対象者が地域での組織活動に参加しているのかを明らかにすることも必要であると思われる。

ボランティア活動では、男女差は認められず、有意な年齢差も男性の「農作業に関する活動」のみであった。金ら¹⁸⁾や、Chambre¹⁹⁾の研究では、女性の個人活動やボランティア活動の活発さを指摘している。しかし、Chambre²⁰⁾はその後の調査でボランティアを行う高齢者数の増加を報告しており、ボランティア活動を行う男性が増えてきているのではないかと考えた。また、先行研究でも就業者が多い集団では、ボランティア活動の実施割合が低いことが指摘されている。本調査の対象者では男性の有職割合が低めであったことも影響しているのではないかと推察する。

今後新たに行ってみたいことについては、明らかな男女差は見られなかった。また、男女ともに特に行ってみたいことはないと答えた者も約4割おり、行ってみたいことの有無にどのような要因が影響しているのかを確認する目的で、多重ロジスティック回帰分析を行った。その結果、現在のボランティア活動の実施の有無、社会との関わりに関する考え方が大きく関わっており、現在、ボランティア活動を行なっている者ほど、社会との関わりを持って生活したいと思っている者ほど、今後行ってみたいことを挙げていた。本結果は、一部の調査対象者の分析に過ぎず、予想の域を超えない。しかし、日常生活自立度よりも対象者の考えやこれまでの実施経験が、今後の役割の実施意向に関連していたことは、社会との関わりを持って生活したいと考えている者については、自立度のレベルが様々な状況にあっても実施の機会に恵まれれば、役

割を担っていける人々ではないかと考える。また、著明な結果とは言えないが、シルバー人材センター等の認知度も行いたいことの有無に関連する項目として挙げられた。このことは、地域活動に関する関心の高さが高齢者の役割の実施の意向に影響を及ぼす可能性も考えられる。

そのため、高齢者が主体的に担える役割を創造するためには、家の中でも地域においても役割を担っていくことの重要性を伝えつつ、担える役割について高齢者の関心を高めていくことも必要になってくるのではないかとと思われる。

E. 結論

地域住民を対象にグループワークを行なった結果、以下のことが明らかになった。

1. 高齢者が今後も続けたい家での役割は、「家のこと全般」、「漬物作り・干し柿作り」、「農作業」、「庭木の手入れ」、「家族の世話」、「孫の世話」、「ペットの世話」などであった。
2. 高齢者が今後も続けたい地域での役割は、「公園や公民館、神社などの清掃活動」、「近隣との交流」、「子どもの見守り・声かけ」、「地区活動への参加・協力」、「伝統芸能の実施・伝承」に関することであった。
3. 趣味・学習活動では「グランドゴルフ」、「ゲートボール」などのスポーツや「カラオケ」、「町内の人たちとの旅行」などであった。
4. 高齢者が今後新たに取り組みたいことは「子どもの登下校時の見守り」、「伝統芸能」・「昔の料理」・「昔の遊び」を若い人や子どもに教えることなどであった。
5. 非高齢者が高齢者に期待する役割として「家事の手伝い」、「農作業」、「草木の手入れ」などから「若い世代への助言」まで様々であった。また、地域での役割として、地域交流や地域組織活動に関する事、子どもに関する事、文化の伝承に関する事、その他として趣味・学習活動が挙げられ、それらが行えるよう「元気である」ことが期待されていた。

質問紙による高齢者の属性と役割の実態を予備的に分析した結果では、今後新たに高齢者が担える役割を創造する上で、活動内容に関する認知度、これまでの実施経験、社会との関わりに関する考え方、活動能力などが関係してくる可能性が示唆された。今後は、全

対象者の分析をもとに実施可能性のある高齢者の役割内容について検討していく。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

高橋和子, 安村誠司, 矢部順子, 芳賀 博: 東北地方における地域高齢者の役割に関する実態把握と性・年齢別の検討, 第 64 回日本公衆衛生学会総会, 2005 年 9 月, 札幌市

H. 知的財産権の出願・登録情報

特になし

引用文献

- 1) 厚生統計協会: 国民衛生の動向. 厚生
の指標臨時増刊 2005; 52: 33-38, 96-103.
 - 2) 西下彰俊: 高齢期における社会参加の保障. 折茂 肇, 編. 新老年学 第 2 版.
東京: 東京大学出版会, 1999; 1505-1515.
 - 3) 総務庁長官官房高齢者会対策室: 高齢者の生活と意識 第 4 回国際比較調査結果報告書. 東京: 中央法規出版, 1997; 136-163, 86-91.
 - 4) 岡戸順一, 艾 斌, 巴山玉蓮, 他: 高齢者における社会的ネットワークと生命予後との関連. 総合都市研究 2002; 78: 5-12.
 - 5) 岡戸順一, 星 旦二: 社会的ネットワークが高齢者の生命予後に及ぼす影響. 厚生
の指標 2002; 49(10): 19-23.
 - 6) 本間善之, 成瀬優知, 鏡森定信: 高齢者における身体・社会活動と活動的余命,
生命予後の関連について 高齢者ニーズ調査より. 日本公衆衛生雑誌 1999; 46(5): 380-390.
 - 7) 中西範幸, 多田羅浩三, 中島和江, 他: 地域高齢者の生命予後と障害, 健康管理,
社会生活の状況との関連についての研究. 日本公衆衛生雑誌 1997; 44(2): 89-101.
 - 8) 杉澤秀博: 高齢者における社会的統合と生命予後との関係. 日本公衆衛生雑誌 1994; 41(2): 131-139.
 - 9) Oman D, Reed D: Religion and mortality among the community-dwelling elderly. Am J Public Health 1998; 88(10): 1469-1475.
 - 10) 中村好一, 金子勇, 河村優子, 他: 在宅高齢者の主観的健康観と関連する因子. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49(5): 409-416.
 - 11) 香川幸次郎, 中嶋和夫, 芳賀 博: 高齢者の社会活動と生活満足度の関係. 日本保健福祉学会誌 1988; 5(1): 71-77.
 - 12) 安梅勅江: ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法. 東京: 医歯薬出版株式会社, 2003.
 - 13) 安梅勅江: ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法Ⅱ/活用事例編. 東京: 医歯薬出版株式会社, 2005.
 - 14) ロバート・チェンバース; 野田直人監訳: 参加型ワークショップ入門. 東京: 明石書店, 2005.
 - 15) Pruchno RA, McKenney D: Psychological well-being of Black and White grandmothers raising grandchildren: examination of a two-factor model. J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci. 2002; 57(5): 444-52.
 - 16) 古谷野 亘, 柴田 博, 中里克治, 他: 地域老人における活動能力の測定. 日本公衆衛生雑誌 1987; 34 (3): 109-114.
 - 17) 芳賀 博: 高齢者の役割の創造による社会活動の推進及び QOL の向上に関する総合的研究. 厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 平成 16 年度総括・分担研究報告書 2005: 26-38.
 - 18) 金 貞任, 新開省二, 熊谷 修, 他. 地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因: 埼玉県鳩山町の調査から. 日本公衆衛生雑誌 2004; 51(5): 322-34.
 - 19) Chambre SM. Is volunteering a substitute for role loss in old age? An empirical test of activity theory. Gerontologist 1984; 24(3): 292-8.
 - 20) Chambre SM. Volunteerism by elders: past trends and future prospects. Gerontologist 1993; 33(2): 221-8.
- 研究協力者:
高橋和子 (宮城大学看護学部老年看護学)
鈴木直子 (福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座)
研究協力機関: 福島県須賀川市保健福祉部市民健康課, 健康づくりの会

表1 高齢者が行っている役割と今後、行いたい役割

現在も行っている家での役割	現在も行っている地域での役割	現在も行っている趣味・学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・家事の手伝い ・家・家庭を守る ・農作業 ・野菜作り ・花の手入れ ・野菜を作って孫に食べさせる ・留守番 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の草取り、掃除 ・サロン ・地域の交流 ・隣近所の交流 ・外出できない友人の話し相手 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートボール ・グランドゴルフ ・マレットゴルフ ・体操 ・卓球 ・山登り ・散歩 ・スポーツ民謡 ・踊り ・カラオケ ・温泉 ・話をする事
今後も続けたい家での役割	今後も続けたい地域での役割	今後も続けたい趣味・学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・家のこと全般 ・炊事・掃除・洗濯 ・漬物作り ・干し柿作り ・農作業 ・野菜作り ・庭の手入れ ・花の手入れ ・野菜を作って家族にあげる ・若い人への食事の世話 ・自分の子どもを育てる ・孫・ひ孫のお守り ・孫と一緒に遊ぶ ・ペットの世話 ・犬の散歩 ・力仕事(男性) ・仏壇の手入れ ・留守番 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の草取り・花の手入れ ・お墓の参道の手入れ ・公民館の草取り ・神社の掃除 ・近所との交流 ・近所への野菜のおすそ分け ・近隣者への声かけ・あいさつ ・外出できない人などの話し相手 ・子どもの見守り ・登下校の子どもへの声かけ、あいさつ ・公民館活動への参加 ・公民館活動への協力 ・自治会への協力 ・老人会の活動 ・地域の行事に参加する ・地域の行事にお年寄りを招待する ・行政に意見をいう ・地域の伝統芸能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートボール ・グランドゴルフ ・マレットゴルフ ・歩く・散歩 ・社交ダンス ・スポーツ民謡 ・編み物 ・パッチワーク ・歌・カラオケ ・町内(会)での旅行 ・おしゃべり ・健康づくり
今後新たに取り組みたい家での役割	今後新たに取り組みたい地域での役割	今後新たに取り組みたい趣味・学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・若い人に跡を継がせたい ・若い人に見習って欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主性を育てる ・子どもの登下校の見守り、声かけ ・地域を守る ・伝統芸能を次世代に伝える ・昔の遊びを伝える ・昔の料理を若い人に教える ・地区の伝統文化を伝える(わら細工) ・特技を他の人に教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋力トレーニング ・新しい趣味(三味線・植物を育てる)

表2 A地区の高齢者ができる役割

A地区で続けたい地域での役割	A地区で続けたい趣味・学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・児童・園児に遊びを教える ・門松づくり ・たいまつ作り ・伝統芸能の継承 ・一人暮らし高齢者訪問 ・地域の環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング ・グランドゴルフ ・ゲートボール ・カラオケ ・各自の趣味 (木彫り、せともの作り、神楽、生花等) ・死ぬまで元気である ・生きがいを持つ ・夢を持つ
A地区で新たに行いたい地域での役割	A地区で新たに行いたい趣味・学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の災害防止 ・小中学生の登下校の見守り ・子どもと一緒に歩く(見守り・健康づくり) ・子どもの遊び場の風除けを作る ・地域組織への参加を促す運動 ・地域組織団体の存続活動 ・伝統芸能を身につける ・何か教える人(しめ縄、わらじ)の補佐役 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり

表3 非高齢者が捉えている高齢者の役割と高齢者に期待する役割

現在も行っている家での役割	現在も行っている地域での役割	現在も行っている趣味・学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・家の手伝い ・畑仕事 ・花の手入れ ・子どもの心配をする ・祖父母参観 ・孫に小遣いをやる ・昔ながらの料理作り ・若い人が知らないことを教えてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全を守る活動 ・地域活動への参加 ・地域行事への参加 ・地域行事への協力 ・文化・昔の遊びを伝える ・野菜を作って人にあげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ ・ゲートボール ・マレットゴルフ
高齢者に期待する家での役割	高齢者に期待する地域での役割	高齢者に行ってもらいたいその他に活動
<ul style="list-style-type: none"> ・家事の手伝い ・野菜作り ・庭木の手入れ ・家の草むしり ・ごみ出し ・回覧板をまわす ・漬物作り ・留守番 ・電話番 ・家畜の世話 ・家業を手伝う ・祖父母参観への出席 ・孫の送り迎え ・孫のお守り ・楽しいお話をする(家族を楽しくする) ・家族一人一人のことをチェック(健康など) ・若い人に遠慮せずに意見をいう ・若い人が気づかないことをアドバイスする ・自分のことは自分でする 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流に参加 ・地域の行事に参加 ・地区の役員をやる ・ボランティア活動に協力的になる ・地区のパトロール ・人の話を聞いてあげる ・高齢者同士の交流 ・下校時の子どもを見守る ・地域の子どもたちと遊ぶ ・子どもに昔のながらのことを教える (干し柿、しめ縄作りなど) ・老人会で学校訪問 (竹馬、お手玉、輪投げなど教える) ・昔の遊びを子どもに見せる ・子どもへの声かけ ・地域の子どもの世話・見守り ・児童館活動への参加 ・子育て支援 ・区民館の掃除 ・集会所の掃除 ・神社の掃除 ・地区の花植え ・文化行事・季節の行事の伝承 ・伝統芸能の継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・今やってくれていることを続ける ・運動能力を維持 ・健康である ・元気である ・出不精にならない ・寝たきりにならない ・毎日楽しく過ごす ・介護保険などの勉強(施設見学) ・パークゴルフ ・民謡 ・温泉に行く ・友達を持つ ・趣味を持つ

表4 A地区の非高齢者が高齢者に期待する役割

Ⅰグループ	Ⅱグループ	Ⅲグループ
<p>【テーマ】</p> <p>地域の子どもの登下校時の見守り(パトロール)</p>	<p>【テーマ】</p> <p>地域の子どもの登下校時の見守り(パトロール)</p>	<p>【テーマ】</p> <p>放課後、集会所で子どもたちを遊ばせる</p>
<p>【実施する上での困難な要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校までの距離がある ・資金が必要 ・活動が周知されないと不審者に思われる ・歩き回るのは難しい人もある ・冬になると外出は無理(期間限定) ・若い人は勤めがあって一緒に活動は出来ない ・パトロール活動は警察の縛りがある ・今はよその子どもは怒らない ・下手に怒ると恐い反面もある(逆恨み) 	<p>【実施する上での困難な要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人気が少ない危険が多い ・体力・力があまりない人もいる ・高齢者が事故にあっては困る ・強制的には出来ない ・高齢者の意見も聞く必要がある ・活動資金が必要(事務費・保険料) ・とりまとめをどこがするか 	<p>【実施する上での困難な要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しいと思うか ・怪我したらどうするか ・何かあった場合にどうするのか ・冬場の実施が難しい(外に出ない) ・時間的に若い人の協力は無理(働いている)
<p>【どうしたら実施できるか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路に椅子を出して日向ぼっこしながら見守る ・登下校時間に散歩する ・子どもと顔見知りになる ・組織的に行う ・各地域に見守り隊を置く 	<p>【どうしたら実施できるか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車などで巡回 ・散歩がてらに巡回 ・ウォーキングの時間に合わせる ・犬の散歩しながら行う ・交代制で行う ・地域ごとに行う ・組織化する ・会の活動として行う ・登録制にする ・まずできる人からやっていく ・老人クラブの協力を得る ・区が承認して主催となる ・保険で保障する ・商店の人に協力を得る(ステッカーを貼ってもらう) 	<p>【どうしたら実施できるか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代がきっかけを作る ・一緒に行く仲間を作る ・学校の協力を得る ・区長さんの協力を得る ・老人クラブの協力を得る ・区全体が連携をとって行う ・責任者を置く ・頑張ってるやろうとする人が登録する ・週1回位から始める ・月1回でも始める ・子どもがお年寄りにゲームを教える ・若い人が支える ・若い高齢者に協力を求める ・高齢者自身の楽しみにする ・子どもに道徳を教える
<p>【実施する上で準備・調整が必要なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォームを作る ・年寄りの知恵を借りる ・行政のバックアップや協力を得る ・若い人は通勤を利用してパトロールに協力する 	<p>【実施する上で準備・調整が必要なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の協力を得る ・地域の会で提案する ・パトロール用の腕章を作る ・公民館のバックアップ(コピーなど) ・何か起きたときに駐在さんが対応してくれる体制にする 	<p>【実施する上で準備・調整が必要なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会に活動を報告する ・学校と連携する

表5 対象者の属性(性別)

	男性 (n=65)		女性(n=85)		p値
	平均値±SD		平均値±SD		
年齢	75.5±6.0		75.1±6.1		0.636
年齢階級	人	%	人	%	1.000
65-74歳	33	50.8	42	49.4	
75歳以上	32	49.2	43	50.6	
世帯構成					0.013
独居	3	4.8	5	6.1	
夫婦世帯 その他	22 37	35.5 59.7	12 65	14.6 79.3	
健康度自己評価					0.213
非常に健康	2	3.2	2	2.4	
まあ健康	28	44.4	50	61.0	
あまり健康でない 健康でない	21 12	33.3 19.0	17 13	20.7 15.9	
生活満足度					0.031
満足している	22	40.0	35	44.3	
まあ満足している	30	54.5	27	34.2	
やや不満である 不満である	2 1	3.6 1.8	9 8	11.4 10.1	
社会との関わり*1					0.632
そう思う	13	24.1	15	20.5	
まあそう思う	16	29.6	24	32.9	
あまりそう思わない そう思わない	13 12	24.1 22.2	23 11	31.5 15.1	
日常生活自立度					0.860
自立	28	59.6	32	54.2	
ランクJ	11	23.4	17	28.8	
ランクA	4	8.5	7	11.9	
ランクB ランクC	2 2	4.3 4.3	2 1	3.4 1.7	
老研式活動能力指標	平均値±SD n=57		平均値±SD n=79		
合計点	9.0±4.6		10.0±3.7		0.182
手段的自立得点	3.4±1.9		4.0±1.5		0.050
知的能動性得点	2.9±1.4		2.9±1.2		0.739
社会的役割得点	2.7±1.6		3.0±1.4		0.259

*1 社会との関わりをもって生活したいと思うかを質問

*2 定性変数:正確確率検定, 定量変数:t検定